

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 20 日現在

機関番号：33906

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2011～2012

課題番号：23830093

研究課題名（和文） ナショナリズムと人種主義をめぐる現象の比較研究——日本・フィンランドを中心に

研究課題名（英文） A comparative study of phenomena concerning nationalism and racism - focusing on societies in Japan and Finland-

研究代表者 竹内 里欧 (TAKEUCHI RIO)

梶山女学園大学・国際コミュニケーション学部・講師

研究者番号：40566395

研究成果の概要（和文）：

本研究の目的は、ナショナリズムと人種主義をめぐる現象について、近代日本社会とフィンランドを主たるフィールドに、比較・歴史社会学的考察を行うことであった。理論的には、A. ケミライネン、L. グリーンフェルド、N. エリアス、G. L. モッセ等を主に参照した。1年目は、論文投稿・学会発表などを主に行い、本研究の基礎を形成した。2年目は、1年目の成果をもとに、フィンランドへの資料収集、国際ワークショップでの発表・原稿提出等を行った。これからは、研究成果をまとめあげ発信する作業をさらに行っていききたい。

研究成果の概要（英文）：

I performed a comparative socio-historical analysis of phenomena concerning nationalism and racism by focusing on modern societies in Japan and Finland. As theories, I mainly referred to those of A. Kemiläinen, L. Greenfeld, N. Elias, and G. L. Mosse. In the first year, I submitted a paper and presented my findings at an academic conference to form the basis of this study. Based on the results in the first year, I collected materials in Finland in the second year as well as presented my study at an international workshop. In the future, I hope to further my analysis and present the results.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
2012年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,500,000	450,000	1,950,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：ナショナリズム、文明化、社会学、近代日本、比較

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

(1)

申請者の研究テーマ（「ナショナリズムと人種主義をめぐる現象」）については、既に先行研究が多くあるが、しかし、ヨーロッパの中心部、アジア（日本）、アメリカ、あるいは、欧米において中心的な位置にある国と日本との関係を対象としたものがほとんどであり、ヨーロッパにおいて周辺的な位置にあった国（フィンランド等）と近代日本社会との比較研究は、ほとんど行われていない。しかし、ナショナリズムと人種主義をめぐる現象は、日本やフィンランドのような近代化の過程において周辺に位置する社会においてこそ切実な問題として現れた。そうしたことから、19世紀から20世紀にかけ、西洋の強大な文明に接した相対的後進国において、ナショナリズムと人種主義をめぐる現象が生じたかというテーマを考えるにあたり、ヨーロッパにおいて周辺的な地位にあったフィンランドと、アジアにおいて先んじて西洋化を目指した近代日本社会との比較は、有益であると考えられた。

(2)

今回の研究を行う以前、私は、修士課程、博士後期課程において、N. エリアス、B. アンダーソン、E. W. サイドなどの理論を参照しつつ近代日本社会におけるナショナリズムと文明化をめぐる現象について経験的研究を進め、様々な論稿を刊行し、2008年に博士論文を完成させた。また、2006年頃より、フィンランドとの比較社会学的研究の試みを開始していた。特に、フィンランドのナショナリズムと人種主義を考へる上で非常に重要な歴史社会学者である A. ケミライネン(A. Kemiläinen)(1919-2006)の思想について分析を開始していた。そうした研究の延長上に今回の研究がある。

2. 研究の目的

研究期間には、以下の目的で研究が行われた。

(1) ナショナリズムと人種主義をめぐる現象の比較社会学的分析

私のこれまでの研究業績をもとに、近代日本社会における「ナショナリズムと人種主義をめぐる現象」と、フィンランドのそれとの比較分析が行われた。具体的には、アジアとヨーロッパの間でフィンランド、および日本の国家アイデンティティが揺れ動いた19世紀後半から20世紀初頭までを対象に、経験的資料を交え、分析を行った。

(2) ナショナリズムや人種主義をめぐる現象の国際比較分析を行うための理論の精緻化

方法論的側面を強化すべく、A. ケミライネン、G. L. モッセ、E. バリバル、B. アンダーソン、R. ブルベイカー、L. グリーンフェルド等、国内外のナショナリズムや人種主義にかんする理論を参照・検討した。特に、ナショナリズム研究家として国際的に著名であり、かつ、フィンランドにおける人種主義の研究のパイオニアであるケミライネンの理論についての分析に重点をおいて検討を行った。ケミライネンについては、国際的に評価が高い著作を執筆しているながら、言語上の障壁もあり、日本においては、研究がほとんど行われていなかった。特に、従来のナショナリズムや人種主義をめぐる議論の中での彼女の理論の位置づけについて明確にすることを目指した。

3. 研究の方法

今回の研究は、以下のように行った。以下、3点に分けてしるす。

(1) 本課題の理論的参照軸の設定

本研究では、A. ケミライネン、R. ブルベイカー、L. グリーンフェルドなどの従来の比較研究を批判的に発展・継承し、理論的枠組みを整備するよう試みた。特に、未解明の部分が多いフィンランド出身の歴史社会学者ケミライネンの、ナショナリズムと人種主義にかんする理論を検討した。

(2)フィンランド・日本での各種歴史資料の収集・資料の読解作業

日本では、国立国会図書館、京都大学付属図書館、日本近代文学館等におもむき、フィンランドでは、ユバスキュラ大学、ヘルシンキのナショナルライブラリー等におもむき、資料収集・検討を行った。

(3)研究会発表・学会発表・論文投稿

研究会発表・学会発表・論文投稿を行い、国際的比較の見地から様々なコメントや批判を得る機会をもった。具体的には、日本社会学会、京都大学人文科学研究所共同研究「日本・アジアにおける差異の表象」研究会、現代社会学研究会、ジェンダー研究会などで、発表や討論、勉強の機会をもち、また、『椋山女学園大学研究論集 社会科学篇』43号に論文投稿を行った。

4. 研究成果

本研究の目的は、ナショナリズムと人種主義をめぐる現象について、近代日本社会とフィンランドを主たるフィールドに、比較・歴史社会学的考察を行うことであった。主たる研究成果について以下にしるす。

(1)

1年目は、論文投稿(『『西洋』を媒介にしたナショナリズム』『椋山女学園大学研究論集 社会科学篇』43号, P. 19-30)・学会発表(『『文明』の所属承認をめぐる戦略——A. ケミライネンの研究を導きの糸に——』日本社会学会第84回大会、於関西大学、2011年9月17

日)などを行い、本研究の基礎を形成した。
(2)

2年目は、1年目の成果をもとに、フィンランドへの資料収集(2012年8~9月、ユバスキュラ大学図書館等)、国際ワークショップでの発表(『The Paradox of Subjectivization: the Imagined West and Modern Japanese Intellectuals』A Japan-based Global Study of Racial Representations Intercultural Workshop Crossing Boundaries: Art and History Part II Crossing Boundaries in History 京都大学人文科学研究所 共同研究「日本・アジアにおける差異の表象」主催、2012年10月14日)等を行った。ワークショップでは、比較の視点を交えつつ、近代日本の知識人の「西洋」表象に含まれるパラドクスについて英文ペーパーを用意し発表を行った。この成果は、現在、人文科学研究所の要旨集に要旨がおさめられているが、本論については、これから論文として投稿する予定である。今後は、これらの成果をもとに、論文をまとめあげ、国内外に発信していくようにつとめる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

(1)

竹内里欧、『『西洋』を媒介にしたナショナリズム——徳富蘇峰の『田舎紳士』論を題材に——』『椋山女学園大学研究論集 社会科学篇』43号(査読無し)(2012年3月), P. 19-30.

[学会発表] (計2件)

(1)

竹内里欧、「The Paradox of Subjectivization: the Imagined West and Modern Japanese Intellectuals」A Japan-based Global Study of Racial Representations Intercultural Workshop Crossing Boundaries: Art and History Part II Crossing Boundaries in History 京都大学人文科学研究所 共同研究「日本・アジアにおける差異の表象」主催（於京都大学人文科学研究所）（招聘報告）（英語、約 9800 words の Conference paper を使用） 2012 年 10 月 14 日.

(2)

竹内里欧、「『文明』の所属承認をめぐる戦略——A. ケミライネンの研究を導きの糸に——」日本社会学会第 84 回大会（於関西大学）（日本語）2011 年 9 月 17 日.

〔図書〕（計 0 件）

なし

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

なし

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

竹内 里欧 (TAKEUCHI RIO)

相山女学園大学・国際コミュニケーション学部・講師

研究者番号：40566395

(2) 研究分担者

なし ()

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし ()

研究者番号：